

新型コロナウイルス感染後の外科治療の至適時期を調査する国際的多施設共同前向きコホート研究に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年11月20日～2021年9月30日

〔研究課題〕 新型コロナウイルス感染後の外科治療の至適時期を調査する国際的施設共同前向きコホート研究

〔研究目的〕 新型コロナウイルス感染症に罹患した患者と非罹患患者さんの間で外科手術後の死亡率にどの程度の差があるかを検証するための研究です。感染の影響により、外科手術患者さんの外科治療がどのような結果となり、感染患者さんの手術はいつ行えば安全かを知ることにより、今後より良い治療法や診断法などの開発に貢献することができます。

〔研究意義〕 先行研究では、周術期の新型コロナウイルス感染患者の手術の結果を調査し、新型コロナウイルス感染患者の51%が術後肺合併症を経験し、24%が手術後30日以内に死亡したことを報告しました*。本研究では、新型コロナウイルスと診断されていない患者さんを比較群として、手術を受けたすべての患者さんに関するデータを収集します。

* COVIDSurg Collaborative. Mortality and pulmonary complications in patients undergoing surgery with perioperative SARS-CoV-2 infection: an international cohort study. Lancet. 2020;396(10243):27-38.

〔対象・研究方法〕 2020年10月17日以前の10月のある7日間に外科手術を行った全ての患者さん(小児を含む)を対象とします。研究に用いる情報の種類としては、患者さんの背景情報(年齢、性別、病歴、診断名、手術方法、COVID-19感染の有無、術後合併症や死亡の有無、など)と、病院の情報(1週間のCOVID-19患者入院の総数、病院のベッド数、手術室の総数、外科、産科、麻酔スタッフの総数、7日間のデータ収集期間に各専門分野によって実行された手術数、2019年に各専門分野で実施された手術数)が含まれます。術後30日以内の外来経過観察中にCOVID-19を疑うような症状を発症したり、他の手術を受けるなどして再度実施されたPCR検査の結果が陽性となった患者さんについては、その情報も含まれます。情報は、英国バーミンガム大学に提供されます。

〔研究機関名〕 (1)NIHR Global Health Research Unit on Global Surgery Institute of Translational Medicine Heritage Building Mindelsohn Way Birmingham, B15 2TH, UK. (2)帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕 お預かりした診療情報等には匿名化処理を行い、患者さんの氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたうえで取扱っています。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 弘岡 玲奈

研究分担者:澤村 成史

所属: 帝京大学医学部附属病院 麻醉科学講座

住所:〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 7403]